

## 平成23年度事業報告書

### 1 コミュニティー放送（FM ラジオ並びにインターネット放送）を通じた異文化コミュニケーション事業

インターネットのイノベーションのおかげでソーシャルメディアの影響力は大きい。国境を越え、異なる国籍、人種、民族がタイムリーな国際情勢の変化を、多角的・重層的かつ相互補完的に理解することにより地域の信頼醸成の構築に寄与することができる。ラジオ、インターネット放送を通じ、効率的に英語で世界に発信することで、地域や世界が直面する問題をグローバルなフィールドで共有することが可能となる。毎週、30 分の京都コミュニティ放送を通じ、京都市内向けに放送。またインターネットラジオを通じ世界に発信。大学教授、外交官、国連職員、NPO 代表者等を招き異文化コミュニケーションに関連するトークを約 50 回行った。

### 2 教育格差をなくすために世界中に教科書を届けて先生の授業力をサポートする、国境なき教育団（仮称）事業

世界に貢献できる日本の良質なコンテンツを教科書として編集し、世界の教育現場に届けるための事業の開発を目指す。主に海外の教育現場のリサーチおよび専門家へのヒアリングを実施し、異文化交流としての知的交流を促進する事業実施のための準備作業等を行った。

企業の教育コンテンツ開発をサポートし、いち早く世界につながるコンテンツの発信を目指した促進事業を行った。

### 3 異文化交流にかかわる世界の動きをコラム、国連映像・シンクタンク映像を通じて発信

国際情勢の複合的な問題の本質を探究するために、多角的・重層的な視点を持ちながら日本の座標軸を明確にする必要性、すなわち異文化における「世界の中の日本」を戦略思考することが大切と考え、シンクタンクの考察力とジャーナリストの洞察力を融合させ現在進行形の問題をコラムとして解説。毎月作成したコラムをホームページ上に掲載し、継続的な情報発信を国連映像・シンクタンク映像を通じて行った。

### 4 異文化コミュニケーションに関する調査研究事業

当財団のルーツである南洋協会の歴史を探ることで、歴史を振り返りながら未来に向けた異文化交流のありかたを示す。南洋協会に関する調査・研究をテーマに、基礎調査研究にあて、国会図書館蔵書中心に基本文献のデータベース化を図り、文献情報・文献解題などの整理を行った。

## 5 ホームページ編集・管理について

東日本大震災後の社会が抱える問題を異文化交流を通じて解決できるように、様々な角度から情報発信を行い、「異文化交流に関するゲートウェイ」の役割を果たすべくコラムをホームページ上に掲載し、情報発信を行った。また、ホームページ上に寄附行為、役員名簿、事業報告書、収支計算書等財務諸表、事業計画書、収支予算書を公開した。

## 平成24年度事業計画書

### 1 コミュニティー放送（FM ラジオ並びにインターネット放送）を通じた異文化コミュニケーション事業

インターネットのイノベーションのおかげでソーシャルメディアの影響力は大きい。国境を越え、異なる国籍、人種、民族がタイムリーな国際情勢の変化を、多角的・重層的かつ相互補完的に理解することにより地域の信頼醸成の構築に寄与することができる。ラジオ、インターネット放送を通じ、効率的に英語で世界に発信することで、地域や世界が直面する問題をグローバルなフィールドで共有することが可能となる。毎週、30 分の京都コミュニティ放送を通じ、京都市内向けに放送。またインターネットラジオを通じ日本国内及び世界に発信。

### 2 異文化コミュニケーションに関する調査研究事業

- (1) 当財団のルーツである南洋協会の歴史を探ることで、歴史を振り返りながら未来に向けた異文化交流のありかたを示す調査研究を行う。本年度はこれまでの基礎調査研究に基づき、南洋協会の基本文献のデータベース化を図り、文献情報・文献解題などの発信を行う。また、日本、中国、モンゴル、韓国、北朝鮮、極東ロシアで構成される北東アジアの異文化交流についての調査、研究を行う。
- (2) 教育格差をなくすために海外、特にアジア地域への教育現場のリサーチを実施し、異文化交流としての知的交流を促進する国境なき教育団(仮称)事業の調査、研究を行う。
- (3) 国内外の異文化コミュニケーション研究諸団体と連携をはかり、共同研究等による調査、研究を行う。

### 3 異文化交流にかかわる世界の動きをコラム、国連映像・シンクタンク映像を通じて発信

国際情勢の複合的な問題の本質を探究するために、多角的・重層的な視点を持ちながら日本の座標軸を明確にする必要性、すなわち異文化における「世界の中の日本」を戦略思考することが大切と考え、シンクタンクの考察力とジャーナリストの洞察力を融合させ現在進行形の問題をコラムとして解説。毎月作成したコラムをホームページ上に掲載し、継続的な情報発信を国連映像・シンクタンク映像を通じて行う。

### 4. ホームページ編集・管理について

東日本大震災後の社会が抱える問題を異文化交流を通じて解決できるように、様々な角度から情報発信を行い、「異文化交流に関するゲートウェイ」の役割を果たす。ホームページ上に寄附行為、役員名簿、事業報告書、収支計算書等財務諸表、事業計画書、収支予算書を公開する。